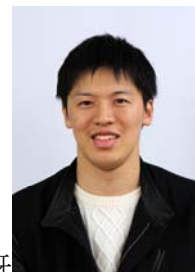


和歌山病院での実習を終えて



加藤 勇冨

今回、呼吸器内科での実習の一つとして、2日間和歌山病院で実習させていただきました。2日という短い期間でしたが、とても多くのことを学ばせていただき充実した実習となりました。実習では主に結核、呼吸管理、胸部レントゲンの読み方についてセミナーをしていただきました。

まず結核については、N95マスクを実際に着用して結核病棟の見学をさせていただきました。結核病棟内の陰圧管理やN95マスクについては教科書でしか学んだことがなかったので陰圧の設備やN95マスクの着け心地など実際に体験できて良かったです。また呼吸管理のセミナーでは酸素マスクを実際に装着して酸素を流すという体験もさせていただきました。酸素を流すと意外と不快感があることに驚きました。

そして2日間のなかで特に勉強になったことは南方院長による胸部レントゲンの読み方についてのセミナーでした。これまでレントゲンには苦手意識があり画像が出てきてもただ漫然と眺めているだけで結局よくわからないままということの繰り返しでした。今回のセミナーではレントゲンの白い線はなぜできるのかというようなことをはじめとして根本の原理から一つ一つ教えていただきました。そのため、レントゲンを読む上での考え方や目の付け所が良く分かり、これまで漫然と見ているだけでは良く分からなかった病変も見つけられるようになりました。おかげで苦手意識を持っていたレントゲン画像も今後は興味をもって勉強したいと思えるようになりました。

2日間の実習を通して感じたことは、教科書を読んでいるだけでは見えてこないことがたくさんあるということでした。南方先生からは、これからは単に教科書を丸暗記するだけではなく、頭でしっかりと考え問題解決する力を養うことが重要だと教えていただきました。このことを頭に入れてこれからの実習に励んでいこうと思います。2日間本当にありがとうございました。